

令和5年度 宇都宮都市交通戦略推進懇談会 結果概要

日 時 令和5年7月28日（金曜日）午後3時30分から午後4時30分まで

場 所 宇都宮市役所14階 大会議室

出席者 別添資料のとおり

内 容 1 開会

2 議題

(1) 「宇都宮都市交通戦略推進懇談会」への委員追加について

(2) 会長の選出について

(3) 「第2次宇都宮都市交通戦略」の中間見直しについて

3 その他

4 閉会

開会

議題(1) 「宇都宮都市交通戦略推進懇談会」への委員追加について

事務局

- ・ **資料1** 事務局より説明
- ・ 市議会議員（柴田賢司議員）並びに本市都市整備部長の2名を新たに委員として加えたい。
- ・ 委員の追加に当たり、「宇都宮都市交通戦略推進懇談会設置要綱」の第3条第1項・第2項を修正したい。

委員一同

- ・ 異議なし

議題(2) 会長の選出について

- ・ **資料1** 事務局より説明
- ・ 会長の選出については、要綱第5条第1項により、委員の互選により定めることとしている。

委員

- ・ 宇都宮地域の交通状況を熟知しており、公共交通やまちづくりに関して深い知見のある早稲田大学の森本教授に引き続き会長をお願いしてはどうか。

委員一同

- ・ 異議なし

会長選出

- ・ 森本委員を会長に選出

会長挨拶

- ・ 平成20（2008）年に宇都宮市総合計画が改訂された際に、ネットワーク型コンパクトシティ（NCC）の考え方が始まった。それに合わせて、翌年平成21（2009）年に宇都宮市都市計画マスタープラン及び宇都宮都市交通戦略が策定された。今年8月26日にLRTが開業予定ということで、13年前に作った計画がいよいよ本格始動する。多くの皆様のご協力でここまで走ってこられたことに感謝している。引き続き会長職を務めさせていただき、皆さんと一緒に宇都宮の市民のまちづくりを考えていきたい。

議題(3) 「第2次宇都宮都市交通戦略」の中間見直しについて

会長

- ・ 事務局から説明されたい。

事務局

- ・ 資料2 説明

会長

- ・ 今回が今年度第1回目の懇談会ということで、主に施策の進捗状況と評価指標の状況について報告した。内容について意見があればお願いしたい。
- ・ 加えて、中間見直しの方針について、必要な視点等があれば意見をいただきたい。本日の意見等を踏まえ、次回反映したものをお示ししたい。

委員

- ・ まさにこれからLRTが整備されるということで、全体のネットワークの形が変わってくると考える。新たにバス停等を設置していく時は、バスロケーションシステムを整備したバス停の導入や、その他、DX等の時代の潮流を踏まえた見直しを取り入れていただくのが良いのではないかと思う。
- ・ 多様な交通手段を「つくる」における自転車走行空間や歩行空間の整備について、都心部まちづくりプランとの連携は特に意識し、計画上の齟齬がないように図っていただければと思う。ウォークアブルなまちづくりの推進は、歩行空間整備にあたって重要になると思う。

事務局

- ・ バス停におけるバスロケーションシステムの導入については、電源確保等の制約があるが、LRT開業と併せたバス路線の見直しと併せて、対応できるところから進めてまいりたい。なお、LRT停留所の主要部にはサイネージを設置し、接近表示、乗換案内等を行うこととしている。

- ・ 自転車走行空間整備については、都心部まちづくりプランとの整合を図りながら検討を進めている。現在、歩きやすい空間、自転車を通す空間、車を通す空間など、道路の性格付けを検討している段階であり、詳細は調整中だが、明らかになり次第提示できればと思うので改めてご意見を伺いたい。

委員

- ・ 現在、電動キックボードのシェアリング実証実験が行われているが、歩行者としては新しい乗り物なので事故について懸念がある。歩行者との交錯に留意し、事故防止等を考えていただきたい。
- ・ 視覚障害者が安心して、まちなかの横断歩道を利用出来るよう、エスコートゾーンの設置を併せて依頼したい。

事務局

- ・ 電動キックボードについては歩行者との交錯について、新聞、メディアでも懸念の声が大きい。電動キックボードの実証実験は本年1月から開始しており、現時点で、歩道を走行することができないルールとしており、見る限りではルールが守られている印象である。今後も歩行者と交錯することがないように、安全な利用についての周知は市のホームページ等でも引き続き進めたい。スマートフォンアプリを介した周知も行ってまいりたい。
- ・ エスコートゾーンについては、公共交通と道路の連携に向けて、バス停等へのアクセス道路の環境は少しでも良くすることができればと考えている。

会長

- ・ 7月上旬のG7香川・都市大臣会合では、脱炭素、インクルーシブ（包括性）、DXの3つのテーマについて議論が行われた。今回の宇都宮都市交通戦略の見直しについても、上記3点に留意しながら検討を進められると良い。

委員

- ・ LRTが8月26日をもって開業する。これまで色んな方々の厚いご支援をいただき、心より感謝申し上げたい。
- ・ バス再編については兼ねてから地区ごとの要望もたくさん出ている。地域内交通をどのように絡めていくかが重要である。
- ・ LRTが整備され、停留所が19箇所、500m間隔で設置されるが、LRTができればまちが発展するという考え方は間違っている。LRTの停留所とそれから目的地までの二次交通をいかに上手く結び付けて利便性を向上するかが重要である。
- ・ 自転車の問題について、昨日、自転車駐輪場がLRT停留所にどれだけ整備できているか確認したところ、ほぼ整備できているという回答であった。
- ・ 停留所からの交通の利便性の拡がりを持っていただけないと、LRTに乗っても結局は自分の行きたいところまで行くのは難しい。LRTの基幹公共交通としての役割を考え、それを補うのが基幹バス、自転車、タクシー、徒歩となるよう、全体を上手く混ぜて計画的にやっていくことが重要である。

- ・ M a a S が流行っているが、上手く使うには難しい問題がある。宇都宮の場合は、少し長い目で L R T を中心とした交通網を育てていていただきたい。

会長

- ・ L R T 開通後の地域内交通や基幹バスとの連携は重要である。

委員

- ・ 公共交通を「つかう」フェーズに入っている中、モビリティマネジメント施策の実施により、いかに公共交通を多くの方に乗っていただくかが重要となる。モビリティマネジメント施策の有効性について、数字で示すことは難しいかもしれないが、効果を検証することも重要であり、結果を踏まえ、モビリティマネジメント施策に一段と力を入れていただきたい。バス協会としてもできるだけ協力したい。
- ・ 資料 2 の 3 0 ページ、1 日あたり上限運賃 4 0 0 円について、路線バスは市内だけで完結しておらず、鹿沼市や芳賀町等、市町を跨いで運行している。宇都宮市だけに閉じず、周辺市町も含めて割引施策を導入したり、P R を行うなどして使ってもらったりする取組に繋げていくことが重要である。

委員

- ・ 今の説明資料の中では、交通機関のメインが L R T であり、バス路線再編については東部地区が中心に考えられている。一方で、宇都宮市内の地域内交通は、L R T に接続していない地域がほとんどであり、L R T に接続していない地域の住民においても L R T を活用できる方法を考えてもらいたい。
- ・ バスと L R T を乗り継ぐことで目的地までトータルでどの程度の時間がかかるかという視点も含めて考えていただきたい。
- ・ L R T の西側への延伸については、L R T を利用する価値観を関係者で共有しながら計画を進めていかないと進歩がない。市全体を巻き込んだ形で進めていくことができれば、L R T の利用が増えると思う。
- ・ 潜在的な利用者のことも考えて、みんなが利用できる状況を作る必要がある。地域内交通については乗継もできる状況にあるが、不便なこともあり乗継での利用は少ない。もっと便利に使えるような状況をつくっていかなければ、利用者の増加は期待できないと思う。このような実情も踏まえながら見直しを考えていただきたい。

会長

- ・ L R T については、東側の整備を第一歩と捉え、次のステップに繋げていく視点が必要。

委員

- ・ 基本方針 2 「つなぐ」のうち、M a a S の部分は、交通手段同士を繋ぐという点で重要であると考え。目的地から目的地まで入力した時に、どのような交通手段があるか、選択肢を出せるような検索エンジンのようなものは現在整備されているのか

事務局

- ・ 現時点では、市オリジナルの検索システムはない。民間の G o o g l e M a p やジョル

ダン等に関東自動車からデータを提供いただき、市内のバス路線を検索できるようにしている。一部の地域内交通についても対応している。

関沢委員

- ・オリジナルで作成しなければならないということはない。様々なモードの選択肢を持つことができることが重要である。

会長

- ・交通DXに関する取組については、これからスーパースマートシティ、MOVE NEXT UTSUNOMIYAなどの動きの中で全市的に対応を検討することが重要である。

委員

- ・資料2の25ページの自動運転について、西川田駅～県総合運動公園間でのピストン輸送でLV2の実証実験を実施している。実験中、手動介入は発生したものの事故等は発生していない。また、利用者からも、乗車する前までは不安だったが、乗車してみると自動運転は思ったより安全という評価が多かった。ただし、将来的に無人運転に展開する際には、色々と不安があるということも分かった。今後、市で自動運転に関する取組を行うことがあれば、県としても協力できることがあると思う。
- ・資料2の33ページの県の地域公共交通計画策定については、昨年度から現況把握を行いながら、地域部会を開催し、地元関係自治体の意見を伺いながら進めている。今年度末の計画策定に向けて検討を進めている段階であり、今後内容が固まり次第、紹介できればと思う。

委員

- ・自動運転の件は、我々も非常に興味を持っている。例えば、LRTで清原地区まで向かう場合、トランジットセンターから目的地となる企業まで距離がある。そういった場面で、LRTのダイヤに沿った運行ダイヤで工業団地内を無人走行するモビリティがあると、移動が便利になる。将来を見据えた自動運転のシステムを検討いただきたい。

会長

- ・参考情報として、今年5月から福井県永平寺においてLV4の実証実験が始まっている。

委員

- ・免許返納者が増えている一方で、高齢者にとって車以外の交通手段がない。
- ・宇都宮市は縦の交通は便利だが、横の交通がない。例えば、市役所から済生会病院に行こうとすると、行けないことはないが、一旦宇都宮駅に出て、それから済生会病院行きのバスに乗らないといけない。
- ・このような事情により、免許を返納するのを躊躇する方もいれば、返納後も息子等に乘せていってもらっている方もいる。特に、横の交通網をもう少し検討していただければと思う。
- ・バスと地域内交通の乗継が可能となるよう、地域内交通ももう少し発展させていただきたい。

- ・ 高齢者の意見では、そもそもLRTは必要ないという意見もあるし、今申し上げたことが整備されれば、今後西側のLRTは必要ないという考え方もある。

会長

- ・ 宇都宮市の公共交通は、南北は強いが東西は弱いという特徴がある。この解決は一朝一夕にはできないかもしれないが、意識していきたい。

委員

- ・ 本日は、障がい者の視点、高齢者の視点、LRT事業者、バス事業者の視点など、様々な視点から意見をいただいたが、アクセシビリティの話が主であると感じた。
- ・ 特に本日の会議では、これまでの実績、やってきたことに対しての案内が中心となり、具体的なものはお示ししていないが、次回、現状分析結果や課題整理についてお示ししたい。
- ・ アクセシビリティとしては、カバー率、カバー圏域だけではなく、実際の目的に応じた公共交通の利便性の視点から分析を行うとご案内している。改めて現状分析結果や課題をご覧いただきながら、ご意見をいただければと思う。今日いただいた視点についても、できるだけ反映させた上で、現状分析結果、課題整理をお示しできればと思う。

会長

- ・ 他に質問が無ければ、進行を事務局にお返りする。

閉会

事務局

- ・ 本日の会議資料は、欠席委員の皆様にも送付させていただいている。欠席された委員の方々からの意見も踏まえながら検討を進めていけたらと思う。以上をもって、第1回宇都宮都市交通戦略推進懇談会を終了したい。

以上